

【編集元】衆議院議員中川正春事務所

E-mail:nakagawa@cronos.ocn.ne.jp

三重／〒513-0801 鈴鹿市神戸 7-1-5

TEL:059-381-3513／FAX:059-381-3514

東京／〒100-8981 千代田区永田町 2-2-1 衆議院第一議員会館 519 号室 TEL:03-3508-7128／FAX:03-3508-3428

○参院選候補予定者「よしの正英」氏に

分裂した野党が一つになって、「三重民主連合」が設立され、私が代表に就任しました。参議院の三重選挙区では、四日市市選出の県議会議員「よしの正英」氏（44歳）を擁立。足元の三重県では野党が一つになって、安倍政権に挑戦をしていきます。

こうした野党統一の動きは、千葉県や宮城県、神奈川県、長野県などにも波及しています。政権政党として国民の支持を得られるためには、野党は一つの塊となって戦うことが大前提だということは、分裂したとはいえ、私たちの仲間一人ひとりが、肝に命じていることです。三重県の小さな塊が全国に広がっていくように頑張ることが、国政での私たちの目標です。

参院選は来夏7月。統一地方選挙（知事、県議会、市議会議員選挙）は来春4月。参議院のよしの正英氏だけではなく、県議会や市議会でも、新しい仲間の擁立を進めています。

○自然エネルギーの地産地消

日本のエネルギーの将来について、原発に依存するのはやめよう、という国民的な合意は、出来ていると思っています。問題は、それでは、再生エネルギーに転換する腹積もりが国民の間どこまで真剣にできているかです。残念なことに覚悟を決めた集中投資はできていません。分散型の配電システムへの切り替え、蓄電池などへの技術革新投資などが中途半端です。また、太陽光、風力、小水力や地熱、バイオマス発電などの建設が地元で歓迎されず、迷惑施設として捉えられ、反対運動などで頓挫するケースが増えています。

自然エネルギーの普及がうまくいくかどうかは、誰が主体になって事業を起こすかにかかっています。それぞれの地元で自ら運営母体を作り、そこからの利益を、地元に戻元することが出来るかどうかだと思います。東京から来た企業が発電施設を設置して、利益を吸い上げ、地元には土地の賃貸料くらいしか還元されないような構造では、地元にとっては迷惑施設でしかありません。一方で太陽光、風力、水力や地熱発電は、地元で自らが組み立て、その利益を地元に戻元させれば、地域おこしの源泉になります。

そのことを思いながら、地元に戻って方々でこの話を持

ち掛けているうちに、小水力発電に取り組んでみようかという村々がいくつか出てきました。皆さんと一緒に頑張って発電所を作りたいと思います。同時に、今建設が進んでいる川上ダムなども、水道用水や維持用水などの発電への活用を考えれば発電規模は増やせるし、事業母体の組み立ては伊賀市を中心に地元資本で組んでいけば、利益をもっと地元に戻元できると提言しています。

○ロヒンギャ難民キャンプへ

バングラデシュは大混乱です。ミャンマーの軍部に村を焼き討ちされ、虐殺とレイプから逃げてバングラデシュの難民キャンプでかろうじて命をつなぐ少数民族ロヒンギャの人々が70万人。コックスバザールの山間地に作られたキャンプに行ってきました。竹を編んだ壁や棕櫚の屋根で作られた掘立小屋が山並みの彼方まで続き、雨期の真ただ中で、降った雨が直ちに谷あいには奔流を作り、斜面に立つ小屋は今にも崩れ落ちそうになっていました。日本ではあまり知られていませんが、必死で支援にあたる国連機関の職員の中には、日本の若者たちの姿もあります。

ミャンマー政府は、難民の帰還を受け入れると言っています。しかし、難民たちの思いを聞けば、「ミャンマー軍をコントロールできない政府の言葉は信じられない。軍は、私たちを生かしてはおかないつもりだ。」と言います。「食料や水、そして衛生管理など、混乱が長引けば、日本を含む各国の援助で成り立つ国連機関の支援は、持続することが難しくなる。」と、現地の職員は緊迫した表情でうたえます。

ミャンマーで会見した政治指導者たちは、自分たちの民主化努力の限界を嘆きます。ロヒンギャだけでなく、他の少数民族問題でも、軍に対して自分たちが直接指揮介入できないのが現実だといいます。アメリカやヨーロッパの国際社会は、アウンサン・スー・チー女史の指導力欠如を批判します。日本政府は黙ったままです。しかし、私は、ここで日本政府が、スー・チー女史を責めるのではなく、首謀者である軍部の指導者の間違いを確かな証拠をもって責め、国際社会と連携してスー・チー女史の民主化努力を助けるべきだと思います。ミャンマーに進出しようとしている企業は、当面、様子を見て、立ち止まったままです。